

令和3年3月8日

## 報道発表資料

公益財団法人 北九州産業学術推進機構では、I o Tを活用した中小企業等の生産性向上の支援活動として、令和元年から「生産性向上リーディングモデル創出事業」に取り組んできましたが、このほど、その取り組みの概要と成果を紹介する冊子が完成し、配布を始めることとなりました。

また、生産性向上リーディングモデル創出事業の対象企業の中から、4社の代表者が市長を訪問し報告を行うことになったので、取材についてご協力をいただきますよう、お願いいたします。

### 記

1 市長表敬の日時 令和3年3月11日（木） 15：30～16：00

2 場所 本庁舎5階 プレゼンルーム

3 訪問企業及び代表者

(1) 株式会社戸畑ターレット工作所（小倉南区）

代表取締役社長 松本 大毅（まつもと だいき）

(2) イワキ工業株式会社（小倉南区）

代表取締役社長 松本 俊満（まつもと としみつ）

(3) 株式会社山本工作所（八幡東区）

常務取締役 近江 洋（おうみ ひろし）

(4) 株式会社ハピクロ（八幡西区）

常務取締役 中田 佳孝（なかた よしたか）

(5) （公財）北九州産業学術推進機構（FAIS）

理事長 松永 守央（まつなが もりお）

4 冊子のタイトル

I o T活用による生産性向上事例集

北九州モノづくり企業の挑戦 ～ まず、自分たちでやってみる！ ～

5 担当者連絡先

北九州市若松区ひびきの2-1

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

情報産業振興グループ

担当： 林・水口

## 各社の取り組み概要

### 1 株式会社 戸畑ターレット工作所

製品の10%近くで不具合が起きていたアルミダイカストで作られたヒートシンクのバリ取りの作業において、個人の技能でのばらつきをなくすため、作業員1人1人が決められた手順と時間を厳守するよう、作業員の前に専用ランプを置き、超小型コンピューター「ラズベリーパイ」用のプログラムを独自に開発し、作業監視や動画データ解析、トラブル発生時の一斉メール連絡などを可能にした。

### 2 イワキ工業株式会社

作業員に専用のスマートフォンを配備し、2次元コードを読み込ませて各製造工程の作業内容を入力させることで、工数把握や作業時間などを見える化につなげるとともに、作業時間を標準化することで、装置の稼働時間を把握し、工程の最適化、データの蓄積による原価率の明確化、評価や納期短縮につなげた。

### 3 株式会社 山本工作所

薄鋼板からドラム缶の天地板を打ち抜いている400トンプレス機の異音を検知する技能は、これまで熟練者の経験と勘に頼っている状態だったが、その判断をIoTで解決しようとするもの。プレス機の音を長時間録音し、そのデータを福岡県工業技術センター機械電子研究所（北九州市八幡西区）が開発したシステムで音紋解析することで、故障予知につなげようとするもの。

### 4 株式会社 ハピクロ

ハピクロは、北九州市八幡西区で運営する「にじいろのはな保育園」において、セキュリティや業務改善などデジタル変革（DX）を導入することで、保育で発生する労力の軽減に努めようとしてきた。

保育の現場では、開園から閉園までの間に、登降園記録、健康管理、給食業務、スタッフの出退勤記録などの作成が必要で、中でも保育記録は、発熱した、給食を食べなかった、けんかした等々、日々の業務内容を保育士が空き時間を見つけて手作業で記録していく労力は膨大であった。同園では、帳票作成サポートシステムを開発し、これら手作業の入力をスマートフォンやタブレットで簡単に作成できるデジタル入力に切り替えた。

また、幼児の体の動きと呼吸を非接触で計ることで、事故や乳幼児突然死症候群（SIDS）を未然に防ぐ機器「ハピサポBabyセンサー」を開発、導入するとともに、同センサーを外販することで、幼児の健康管理だけでなく保育士の精神的負担を軽減すると高い評価を得ている。